

5-2 公共交通の見直し

自動車の普及によりバスや鉄道の利用者は減少し、自動車を運転できない高齢者や子ども達が交通弱者として生活の移動手段を奪われています。このため一部の地域で市の委託による路線バス、老人を対象とした福祉バスや児童のためのスクールバスが運行されています。しかし、それらは過去の様々な地域事情から行われてきたことで、明確な基準はなく非効率な面も否めません。

今後、鉄道やバス事業者とも協議しながら、交通弱者に対する最低限の交通手段をいかに確保するかを検討し、市民が使いやすく経済効率のよい公共バス交通を全市的に見直し、充実を図ります。



国道421号 員弁警察署東交差点

5-3 幹線道路の整備

道路の有無によって地域経済は大きな影響を受けます。特に、要望の高い幹線道路の整備には力を入れ、国県への要請を強めたいと考えます。

昭和26年以来、要請し続けてきました国道421号石榑峠のトンネル工事がついに平成17年度の国の予算に盛り込まれました。宇賀溪白竜神社の下から滋賀県八風谷への約4.2kmの長いトンネルです。登竜荘からトンネルの入口までの約1.0kmは県事業として2車線及び登坂車線で整備される予定で、完成年度は平成20年と想定されています。

東海環状自動車道は万博の影響から愛知県側の整備が優先されてきましたが、つぎは三重県側の順番と期待されています。引き続き事業化に向けての要望活動を進め、早期着工を実現したいと考えます。

県道南濃北勢線は平成17年度事業として飯倉地内のバイパス工事と橋梁工事が予定されています。また、国道365号員弁バイパスの大泉橋から南大社間の約1.4kmと県道東貝野南中津原丹生川停車場線



トンネル工事早期着工の看板

の東貝野から鼓の間のバイパス工事260mは遅れている用地の確保を急ぎ、平成17年度には着工できるものと思われます。

国の補助を受けた市道の継続事業としては三里駅からいなべ総合学園への大安・員弁連絡道路、県道北勢多度線から阿下喜駅へのバイパス道路、貝野分校跡から西貝野への橋梁を含む通学道路や丹生川久下と中山を結ぶ下青川橋の改良工事を、新規事業として阿下喜と石川（太平洋セメント藤原工場付近）を結ぶ前川線の拡幅工事を予定しています。

丹生川地区からの強い要望を受け、丹生川活性化の切り札として平成10年から取り組んでいる県営農道は、平成17年度でJ Aみえ・いなべ本店から丹生川中研修センターへの工事が完了する予定です。それに続く、市道丹生川竹永線から国道306号間の工事も平成17年度中に工事着工ができるように用地の確保に努めます。

5-4 企業誘致

活気あふれるまちづくりには活発な企業活動が欠かせません。幸い、いなべ市には(株)デンソーやトヨタ車体(株)をはじめ、優良企業が数多く進出しており、多くの雇用を生み出すとともに、税収入にも大きく貢献しています。

今後とも新たな企業誘致に向け、県との連携を強化し、工場の移転や新築を検討している企業の情報をいち早く捉え、企業ニーズにあった用地をいつでも紹介できる体制を整えます。また、すでに進出いただいている企業のフォロー体制も充実させ、市民同様に進出企業の満足度も高め、新たな投資を引き出す環境の整備を進めます。